

# 日本食糧新聞



## 経営者には3つの資質

意識に判断しているから、行動できない。「謙虚さ」。人との接し方で分かる。仕事で大きな成果を出し続けている人ほど謙虚で誰に対しても接し方に差がなく、かつ自然体。残念な人ほど序列志向が強く、事務局や年下の役職下の受講生に横柄で、人の失敗に厳しく。さすがに経営人材に限って必ず、失敗したときには他人や環境のせいにする。成功体験を冷静に客観的にどちらえることができれば、どのような成功でも自分の実力と努力以外の多くの力が作用していくという認識に至る。

だらうか。いずれも  
本人が高めたいと  
想い、考え、やってみ  
る、自分がどう感じた  
を振り返り、日々実  
践するし。持つて生  
まれた資質ではなく  
、誰か上げてしま  
ふな。

ある企業の次世代経営者人材育成をミッシンソンとした社内大学の立ち上げに当たって、そのプロジェクトチームメンバーになつた。

著者がインタビュートする  
ことの多い経営者育成の  
柱となる考え方を明確  
にする」とになった。

だ。あらためて経営者の在り方について考る  
を深めてみた。熱意

成績を上げ続けること  
ができる人物には三つ  
の共通する資質がある  
をどう聞いているかを  
は観察力が必要だ。

品語の経験というファイルで、感謝の心。酒席でこれまでの成功体験について話を聞く、よく分かる。残念なのは、成功!自分の実力と努力の結果と勘違している。こういう

じるものだと感じる。  
◎◎ 磨き上げる力  
資質は生まれつきの  
ものだろうか。あるいは、知識で身につくも

○○  
○○

ジエクトとなつたが、  
3人チームとなつて社  
内の経営陣・歴代経営

くる前に良い人間つく  
る方が先とちがうか  
！」本質を突く言葉

多くの経営者候補と接してきましたが、研修後に経営者として大きくこの資質を見抜く

い人は、受け入れる前のところまでは行け  
に自分の頭で考える。もそこから先に行け  
自分の価値観やこれま  
い。

て多面的視点、本質をつかむ力などの「見えないものを見る力」に通じる。

子  
一  
人  
口  
目

00 26 00

者として必要といわれるものは多々あるが、その中でも、「経営者の人間力」について考えてみたい。

「素直さ」「謙虚さ」「感謝の心」である。「一言で表現すると」「人間力」ということにならぬのではないか。

た結果どう思うか発言させるとよく分かる。伸びる人は受け入れ、行動してみる。そしてその結果について自分骨に態度に出す人はないが、一番弱い立場にあると思われる部下やパートさんに聞いてみるとすぐに分かる。ノや人から常に支えられないでいる感覚がある。そのことに感謝する心は多くの偉大な経営者に見られる資質では